

**児童・生徒の現状・課題**

学習計画を立てて課題に取り組むことができる生徒が70%以上いるが、30%弱の生徒は、計画的課題を進めることができず、諦めてしまう場面もある。また、難しい計画を立て計画通り進むことができず、粘り強く取り組むことができない生徒もいる。

**学び続ける力を育むための重点目標**

生徒たちが、自らの学びを自ら進めるために、「できる」「理解する」につなげるため「より広い見方」や「より深い考え方」の学習ができるようにする。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	72.5%	75.0%	65%
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など。学び方を自分で選び、学習を進めることができる。	89.2%	90.0%	75.3%

**教員調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	76.9%	75.0%	90.0%
②授業では、学習課題や学習過程等、生徒が学び方を選択する場面を設定している。	76.9%	90.0%	84.3%

**具体的な手だて①**

- ・教具を用いて、授業の目標・流れ・ゴールを明示する。
- ・家庭学習の適切な計画を立てさせ、実行するように指導する。

**具体的な手だて②**

- ・授業内の10分間学習する時間の設定(教科書の選択、課題提出方法の選択を含む)
- ・それぞれの力に合わせた課題(問題)を用意し、生徒自身が選択できるようにする。

**具体的な手だて③**

- ・ペアでのやり取りや見直す時間の設定と進捗状況の確認を教員と行う
- ・授業の振り返りを内容だけでなく、学び方についても振り返りの場面を設定する。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・今回教員・生徒向けに実施したアンケート結果を共有し、各教科の特性を生かした授業の展開を行っていく。
- ・第2学期に授業を実施する中での気づきを、アンケートの結果を通して共有をはかり、授業研鑽を行っていく。

**総括(7月)**最後まで粘り強く取り組む力が弱い。それは、授業だけでなく生活環境からも考えられることで、自身の興味関心があることの情報をより多く収集し、分からない・理解できないことはすぐ解決・回答を探すことができる。そして解決・回答を見つけたら、それ以上深く考えたり、行動に移したりすることができないと考えられる。そこで、日常の授業において、「与える過ぎないこと」＝「生徒が思考し行動することにつなげること」ができるよう、教員が適切な支援に関する準備をし、生徒の現状を把握し、授業改革を行っていく。

**総括(1月)**研修を重ねて調査を行うと、生徒が学び方を選択する場面を設定場面について模索している教員が多くいることが分かった。しかし、1月の研究授業、講師の先生の講話、研究協議を経て、教師が「選択肢」を設定することが目的になっていたことに気づくことができた。教師が意識することで、授業の1つの手段として「選択肢」を設定し、生徒が主体的で対話的で深い学びにつながる授業を学校として授業改革を行っていく。